

文化財だより

第 8 号

平成 7 年 3 月

発行 真鶴町教育委員

特 集

真鶴の古道と文化財

(二) 真鶴地区

古文書にみられる真鶴の古道

真鶴町文化財審議委員会
議長 湯本 満

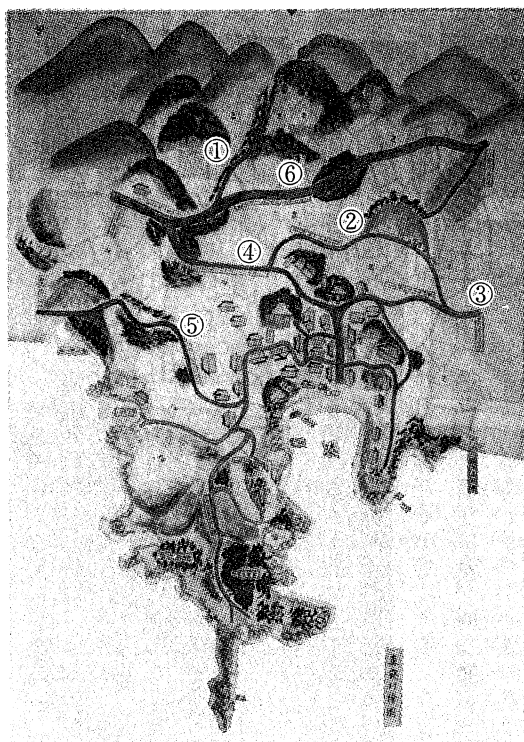
地域に古くからある道（古道）を調べることによって、昔の人々の暮らしや土地利用の仕方を知ることができます。

真鶴地域の古道のあらましについては、前号（第七号）一、三面の解説図によりおわかりいただけると思います。

古道とは普通、江戸時代からあるものをさしていますが、近年の都市計画などで地内に新しい道がつくられるようになって、古い道筋は消えずに残っているものです。それは昔の人々の知恵が今も生きている証拠だともいえます。

古道の所在・

位置は、文字（古文書）や図（古地図）に残っていますが、当地域には「真鶴村書上帳」（寛文十二年＝一六七二）と、真鶴村絵図（寛政五年＝一七九三）、岩村図（文



寛政年間の真鶴村絵図（模写）

※○の数字は道筋番号

政五年＝一八二二）がありまして、絵図

（写真）と書上帳から推定される大通（

隣村へ通じる道）はだいたい次のとおり

です。（但し熱海道・土肥道以外の起点

は、東浜の「御札場」）

①熱海道（現在の旧道一三五号線）

②真鶴往還（馬道）発心寺―小学校横―

丸山―岩村境

③真鶴往還（徒歩道）発心寺―東一本松

―（下り坂）―岩村境

④上道 発心寺―小学校横―真鶴橋―

荒井城址横―駅前

⑤新井道 西浜―宝性院―尻掛入口バス

停（上り坂）―新井坂―福浦境

⑥土肥道 駅前―役場横―謡坂―岩村境

目 次

特集 真鶴の古道と文化財 (二)

古文書にみられる真鶴の古道

文化財審議委員会議長 湯本 満 (1)

真鶴往還近辺

真鶴往還 (2)

真鶴の道祖神 (2)

水上山自泉院 (2)

風外遺跡 (2)

しとの岩屋 (3)

貴船神社と参詣道 (3)

宮参りの道 (3)

貴船神社 (3)

上道沿道 (4)

上道 (4)

清涼山常泉寺 (4)

仏光山発心寺 (4)

津島神社 (4)

新井坂周辺 (5)

新井坂と地藏尊 (5)

荒井城址 (5)

釈迦堂遺跡 (5)

尻掛浜 (5)

熱海道と西念寺 (5)

熱海道 (5)

湊上山西念寺 (5)

郷土研究 郷土学習 (6)

真鶴町の歴史に学ぶ 真鶴中学校 (6)

社会科の学習から 真鶴小学校 (6)

網じめの体験学習 岩 小学校 (7)

文化財審議委員会だより (8)

編集後記 (8)

真鶴往還 近辺

真鶴往還

真鶴往還は、寛文十二年の相州真鶴村書上帳に「真鶴村より岩村御札場まで馬道十一町半、但しかち道は七町」と記されています。

今、この道を岩から真鶴へ歩いてみましょう。

謡坂を真鶴方向に登って行くと、右側に「謡坂の碑」が見えます。道は碑の前で二つに分かれ、右は土肥道・左は丸山丁場跡に通じる丸山道です。左折して僅か数歩進むと、さらに左に下る細い道があります。これが昔の真鶴往還です。

道は大ケ窪の凹地の西を横切る形で二百米位進むと丸山丁場（現在はポップマート）の裏手に出ます。山に突き当たった左に坂をかなり登ると一本松（道祖神わき）に出ます。ここで、昔の石材運搬道路に接します。ここから真鶴宿中に向って仲井坂を下ると発心寺がみえ、山門前で上道に合体します。この本通りを海に向って下ると東海岸、つまり真鶴村お札場（現在、築港記念碑）に到着することになります。

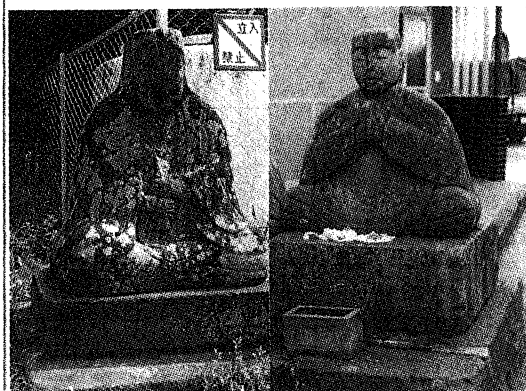
付近にはお札場から東方百米余に風外堂、西方三百米に頼朝ゆかりの「しとど」の岩屋」などの旧跡があります。

真鶴の道祖神

道祖神は、道標や庚申塔などとともに人々の生活に最もなじみの深いものでありました。村や集落の入り口、あるいは道の交わる所、橋のたもとなどにまつられ、外部から入ってくる疫病や災いなどを防いでくれるとともに、良いことをもたらしてくれると信じられていました。

真鶴町でも十一ヶ所で道祖神がまつられていることが確認されています。特に真鶴の道祖神は、古い道の脇や、その近い所にまつられているので、古道を知るうえで重要な資料でもあります。

また、石像の形は、単身の僧形座像であり伊豆形道祖神といわれる分類に属しています。特に真鶴は、伊豆形道祖神の北限あるいはそれに近いといわれ、かつての文化圏を知るうえで貴重ながかり



東の道祖神(右)と西の道祖神(左)

となります。

港の西側にまつられている道祖神は西の神（サイノカミ）といわれ、台座には天保十五年の年号が刻まれています。年号のわかることや、石像の大きなことは、当時の信仰の様子を知るうえでいい資料となっています。

港の東の高台にまつられている道祖神は、町の人々が東の道祖神あるいは一本松の道祖神と呼んでいます。この石像で一番大きなものは、頭にぼうしをかぶり両手で経巻を持っている座像です。この形は真鶴町の中では唯一の形であり貴重な石造物であるといえます。

道祖神のまつりは一月十四日から十五日にかけてであり、昭和三十年代の後半までは子供の祭りとして盛大に行われていました。その後衰退してしまいました。現在では子供会の行事として、どんな焼きが行われるようになり、新しい祭りの形として復活しています。

水上山自泉院

自泉院は曹洞宗に属し、天正年間に本寺にあたる瀧門寺の三世独翁宗存が開山したと伝えられます。瀧門寺の歴代住職行業記によると三世独翁は自泉院を開き真鶴において深く水観を樂しむという記述がありますから、山号の水上山とも合わせ考えると、真鶴の港を一望できる素晴らしい眺めであることが分かります。



自泉院の本堂

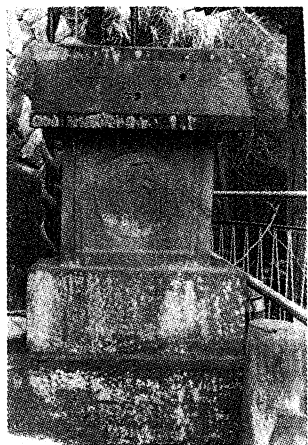
自泉院の裏手より少し登ると相模湾が一望できる場所にです。土地の人は日和山と呼んでおり、漁をする人が天気や魚の群れの様子を観察した所です。ここでは、毎年八月の下旬には海で亡くなった人と魚貝類の供養が行われています。

大正十二年の九月一日にいつものように日和山のお地藏さんにお参りに行った人が、お地藏さんの顔がいつもとちがって怖い顔になっていたそうです。その日の午後に関東大震災が発生して大変驚いたということが伝えられています。

風外遺跡

真鶴港東海岸（昔の御札場）から東方へ段丘の小道を約百米余、ここに風外堂という簡素な建物があります。これが禅僧風外ゆかりの記念物です。

風外は永禄十一年（一五六八）群馬県松井田町土塩（ひじしお）に生れ、幼くして寺に入り諸国行脚して大悟にいたりしました。正しくは風外慧薫といえます。真鶴に来たのは寛永四年（一六二七）



風外の天神堂

風外六十才の時、名主五味伊右衛門演貞の援助をうけて晩年の二十三年間、八十才までこの地に住んでいました。この間名主の願いもあって天神堂を開き、また「巖屋縁起」「貴宮大明神縁起」等を書き残しました。この天神堂を別名風外堂とも呼び風外の遺跡として大切にしています。

風外慧薫は書画に優れだるまや布袋を描くのが好きでした。作品の持つ「独特の丸みを帯びた快いリズム感、そして力強さをそなえた筆致」は、最近芸術的評価も高まりつつあります。高令者の作とは思えない雄大さは、現代人にも共鳴者は多く、見る人に何かを語りかけるものがあります。

しとどの岩屋

源頼朝は治承四年（一一八〇）八月石橋山で平家方大庭景親の軍勢と戦いましたが、援軍がおくれたため大敗してしまいました。頼朝は数日間箱根山中を逃げ回り八月二十八日に岩海岸から房州（千葉県）へ向け脱出しました。その間の一

時、頼朝は真鶴港西側にある海岸の岩屋に身をひそめ大庭軍の追手からのがれることができました。この岩屋を「しとどの岩屋」といいます。

場所は真鶴港西海岸、御札場（築港記念碑）から西方約三百米の海岸にあります。現在では埋立、県道などで変化して昔の姿はありませんが、昭和初頭までは海岸道路はなく後の崖が海側に大きくせり出していました。また、岩屋の深さが十米以上もあって常に波が打ち寄せていたといわれています。

この岩屋については、前述の真鶴村書上帳にも「昔年征夷大將軍頼朝公石橋合戦云々」と記されています。また、その折、平家方の追手がこの岩屋に着目して探索しようとしたところ、岩屋の中からしとどが飛び立ちました。そこで追手たちは人の不在と断定して引返したので頼朝は難をのがれることができたと言明しています。しとどの岩屋の名はここからでたものとされています。

なお、寛永四年（一六二七）真鶴村に来て隠とん生活をしていた禅僧風外及び乞食沙門蔭山は、それぞれ「巖屋縁起」「鴨窟縁起」の書を残しています。

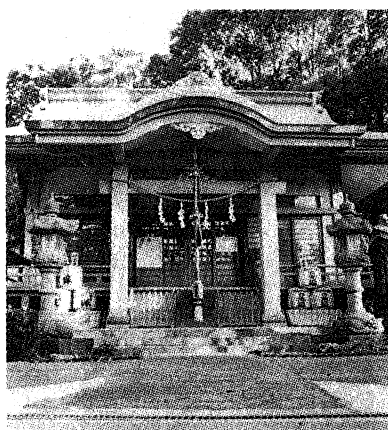
これは、正保二年（一六四五）名主五味伊右衛門演貞の依頼によるもので、当時から真鶴村が「しとどの岩屋」をいかに重要視していたかを知ることができま

貴船神社と参詣道

宮参りの道

現在、真鶴の東海岸、昔の高札場付近に立って港をながめると、防波堤の背後に緑の美しい岬の山が見え、その手前に貴船神社が見えます。現在は海岸道路があり参道となっていますがこの道路ができたのは昭和九年（一九三四）の築港の時でした。それまでは港の西海岸から宮の前までは岩山が海にせり出し、下は岩ばかりの磯でした。（しとどの岩屋がある所）

昔の宮参りの道は、製氷会社の裏手を斜めに登り観音様の前を通ってさらに進みます。すると一之倉社（現在は貴船神社に合祀）の前に出るので、その先を宮前の浜に下りて神社に至りました。その後、観音様までの坂道が崩れたので、西の坂を登って一之倉社前出るようになったといわれています。



真鶴の鎮守貴船神社

また、「一之倉社の坂で小笹を折り、宮前に出ると渚で海水に小笹をひたし頭から雫をふりかけ身を清めてから鳥居をくぐる」……という風習があったともいわれています。

貴船神社

新編相模国風土記稿、真鶴村の項に、「貴宮明神社、村の填守トス、大己貴命ヲ祭ル、神体木造縁起アリ、」と記されています。古くから土地の人々に「お明神さま」として親しまれています。

貴船神社縁起によれば、「寛平元年笠島の沖で毎夜靈光が海面を照らしていた。平井翁が磯辺に出てみると、一つの楼船（やぐらのある船）が波間をただよいながら岸辺に寄ってきた。翁がみると、楼船には王者のような神像が降臨した。翁はこの神（大己貴神又は大国主命）を填護の氏神として貴宮明神に勧請した。」とのこと。

神社はその後、天保五年に焼失、嘉永五年には新築したものの大正十二年の震災で崩壊等改築移転が行なわれ、昭和十年に現在の場所に移り、昭和三十八年に現在の建物が造営されています。また、明治元年に貴船神社と改称しています。毎年七月に行なわれる「船まつり」は日本三船まつりにも数えられ、県の無形民俗文化財にも指定されています。

道 沿道

上 道

上道は、真鶴村と熱海道を結ぶ大変重要な道でした。真鶴村書上帳の記述に「上道本道岩村上道境開山塔より真鶴村城口茶屋迄十五町半」とありますが、七号で紹介された古道経路図に見られる上道は、「真鶴村御札場より城口茶屋迄十一町半」と記載されている道ではないかと思われます。

定口茶屋（定口馬次場）のあった真鶴駅の方からこの道をたどってみましょう。

駅前の魚角と福一の間を入り、荒井城入口の前を通って旧児童館前・内田八百屋の前から真鶴橋（昔はなかった）を渡り、真鶴小学校門前に出ます。

昔を知る人の話では村はずれのこの辺は家もまばらで数える程しかなかったとのことでした。

学校前からは下り坂で常泉寺入口を経て左に折れ発心寺の前を下り東の宿中に入っていきます。

前にも述べたように、この道は村と熱海道を結ぶ幹線道路で馬車や牛車の往來の道でもあったそうですが、山の中腹をけずり丘を切り開いた笹藪の中の道だったそうです。

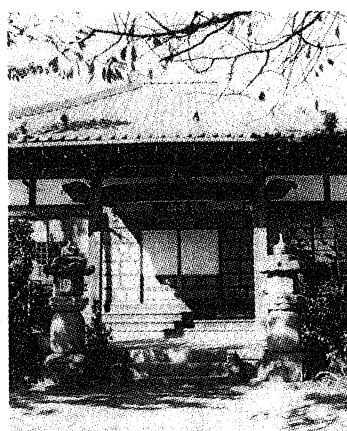
清涼山常泉寺

常泉寺は曹洞宗派で、小田原の早川にある海蔵寺の七世明巖良哲丈和尚が、天正元年（一五七三）に開山したと言われています。貴船神社の祖・平井孫兵衛を中興の基としています。

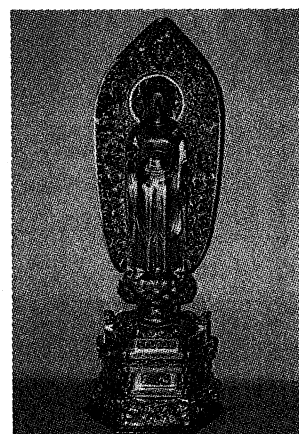
寛平の昔、貴宮明神が降臨された時にその楼船の帆となっていた十幅の掛図と乗っていた小仏像を、平井家の菩提寺であるこの寺に寄贈したとの伝えもあります。この仏像は行基の作と伝えられ、本尊の地藏菩薩の胎藏仏となっているそうです。

その昔は、寺に「平井の間」がしつらえてあり、貴船祭りの時は花山車のかざりを作ったり飾りつけをしたりしたそうです。（今では、これらの作業はお仮屋で行なわれています。）

境内の妙見堂は、星の神・妙見菩薩がまつられており、海の仕事をする真鶴の人達には、「正福寺（廃寺）の妙見さん」として親しまれていたそうです。



常泉寺の本堂



仏光山発心寺の阿弥陀如来像

仏光山発心寺

発心寺は浄土宗に属し、龜宝院・古くは報身院と号していました。小田原南町にある大蓮寺の系統です。

弘治元年（一五五五）僧貞巖が建立したと伝えられます。貞巖和尚（念譽上人）は、鎌倉の光明寺で嗣法、その後全国を行脚してこの地真鶴に発心寺を建立しました。

御本尊は、木造阿弥陀如来の立像で、その伝来について「当寺開山以下代建立次第」「浄土宗神奈川教区寺院誌」によれば、この仏像は聖徳太子の作、寛永二年（一六二五）に伊豆山般若院より奉安され再興（修理）されたと記されています。

仏像は平安中期風を残す平安後期初頭（十世紀後半～十一世紀前半）の頃の秀作で、平成二年に真鶴町重要文化財に指定されています。

津 島 神 社

土地の人々から、「お天王さん」と親しまれている津島神社（石場天王社）は祭神が素盞鳴尊（素佐之男命）です。神社入口に掲げられた案内文には、「創立年代は鎌倉時代の頃といわれる。町内の守護に、荒振る神を鎮め平穏を願う故事により、地元の人々から厚い崇敬を受けている。」と記されています。

土地の古老の話によると、「貴船神社の例祭の前日（昔は二週間前）鹿島踊りを奉納して、町内の平穏無事を祈るとともに、鹿島踊りのできばえを供覧した。」とのこと。この風習は今でも受けつがれています。



津島神社と鹿島踊り

新井坂と地藏尊

宝性院の前の道（西の道祖神前）は山の台通りで、この寺の横の登り坂を、昔は新井坂道と呼んでいましたが、現在では前新井坂と呼んでいます。村から釈迦堂・福浦へ出る重要な近道です。

この坂道を登る途中、最初に右折して真鶴橋にでる「三軒町道路」と呼ぶ分かれ道があります。更に登れば左に折れて水ヶ元に出る地元の水の道もあります。なお、そのまま登れば「釈迦堂山」の守り地藏尊の場所へと出ます。

道はこの地藏尊を中心に「福浦道・真鶴岬・釈迦堂山・荒井城址・真鶴駅」方面へと分岐しています。

新井坂道周辺

地藏尊の敷地内に、
「元禄七年 御守奎兵衛

左 といみち
右 ふくうらみち」と記された道標が建立されています。

荒井城址

真鶴駅より南東三百メートル程の所に荒井城址があります。この近くは城口又は城の口とか、城の本と古くから呼ばれている地名があります。

城址の中心は平たい窪地になり、北が開口部でその他は一段と高くなっています。

湯河原の城願寺縁起や富岡家系図によりますと「荒井刑部実継が、後三年の役の時源義家の陣に加わり奥州征伐に従ったが三十四歳で戦死した。義家はその子実正を京都で育て、父の生地荒井に戻すに当り、荒井は不吉だとして土肥郷に云々。」と記録されています。

また、隣の福浦村を古くは荒井村と呼んでいたことも知られています。

城の入口近くには、年号不明ですが、

「蛭出しや 花はちらちら

目はきよく」

の道標もあります。

釈迦堂遺跡

真鶴地区に先住民の住んでいた代表的な場所が釈迦堂遺跡です。

この地は真鶴港より見て一番高い所で特に暖いところです。

釈迦堂遺跡の名はよく知られています。が、場所が広範囲にわたるため特定できませんが、「真鶴グランドホテル」あたりが中心ではないかと思われます。

今から二十年前、この地が調査されたことがあります。完全な中期縄文土器や石皿・石斧・石鏃など、この地に先住民の住んでいたことを証明する遺物が数多く出土しています。

また、昔この地では、大雨があると道端に、矢じりや釣用の「石」などが現われたと言われています。



釈迦堂遺跡出土の
中期縄文式土器

尻掛浜

尻掛と言えば「田広家のボラ網」として有名なお宅があります。

江戸初期に紀州から真鶴のこの地に本拠を定め、ぼら漁の漁場を開発しました。田広家の先代の話ですと、お殿様（紀州公）が船遊びに見えた時は、家の中より歩いてそのまま釣糸を垂して釣を楽しまれたと伝えられていたそうです。海岸に立てば、ぼら漁の盛んだった当時から使用された舟止めの石も現在見られます。ぼら網の網干し場は、現在マンションが建っていますが、当時から平坦な広場だった様子が、つい最近まで見渡せました。

また、この尻掛浜の近くには「お茶の水」という場所があります。北條氏綱が真鶴に見えた時、この井戸水で茶を点てあまりにもおいしかったので、この地を「お茶の水」と名づけたそうです。

熱海道

熱海道と西念寺

新編相模国風土記稿の、真鶴村の項に、「熱海道、村西にかかるとあります。この熱海道は、江戸時代から伊豆と相模を結ぶ幹線道路で、特に湯治客、物資等の交流の上で重視されていたのです。

明治期以降、熱海道は人車・軽便鉄道の敷設等で拡張改善されてきました。真鶴村城口（定口茶屋）は、海岸の御札場から来る上道と熱海道の接点として、昔から重視されていたようです。

湊上山西念寺

熱海道の北側に西念寺があります。この寺は昔は真鶴村の中央・発心寺の南隣り附近にあつて、俚謡「西念寺の松の木でセミが鳴く云々」で親しまれていました。しかし、関東大震災で焼失したのを機に、現在の位置に再建されました。境内に黒田長政供養の碑があります。これは、寛永十二年（一六三五）八月、長政の十三回の忌に、家臣小河織部正良が建てたといわれ、礎石は当時のものと伝えられています。なお建立者は、岩小松山に良質の石材を発見し、石丁場を開いています。

真鶴町の歴史に学ぶ

―選択教科社会と生涯学習講演会から―
真鶴町立真鶴中学校

中学校では三年生になると自分の興味や関心に基づいて自由に選択のできる選択教科が新たに加わります。平成六年度は六教科が設定され、その一つが、校外に出て「郷土真鶴」を学ぶ「選択教科社会」です。メンバーは十一人、日頃の仲良しが集まったこともあって楽しく賑やかな学習の機会になりました。

そして、人生の先輩や郷土に関わる人などの話を、年二回全校生徒で聞く機会が「生涯学習講演会」です。その一回が『真鶴の歴史―頼朝時代の真鶴―』と題した、真鶴町史編纂室の湯本満先生の講演です。七月二十一日はとても暑い日で体育館の温度はうなぎ上り、それでも皆熱心に先生の話を聞き、郷土真鶴の歴史について多くのことを学びました。

《「選択教科社会」の

学習から》

☆選択教科社会で秋の遠足（城山登山）の資料作りを担当し、事前指導で説明することになりました。この資料づくりと当日の登山で二つの疑問を持ちました。
まずその一つが真鶴と湯河原の二か所に「鵜の窟」があることです。どちらが本物かわかりませんが、僕としては真鶴

が本物であってほしい思いがあります。そして、もう一つの疑問は、遠足の当日土肥城址に立って、こんな高い所に城を造って登り下りが大変だったろうなと実感したことです。

（三年 柊沢 鉄平）

☆「コミュニティ真鶴」の見学にいきました。二つの会議室と和室（無名庵）・ロビーからなる立派な施設で、文化活動による町づくりのためや地域活動の交流の場として活用されるそうです。

ロビーには真鶴の自然や行事の写真などが展示してありましたが、僕達も真鶴町の文化の担い手です。僕は貴船祭りと頼朝旗揚げフェスティバルに参加しました。日本三大船祭りの一つ貴船祭りは町を挙げての大祭で、大勢の人が真鶴を訪れます。大人の人も我を忘れて楽しんでるように見えますが、僕達も結構楽しみます。年に一回の大祭なので、僕としては祭りの日がある一日あっても良いような気がしています。

（三年 藤井 宏章）

☆岩小松山に石丁場を開いた小河織部正良が建てたという、「黒田長政供養の碑」を見にいきました。そして、西念寺の住

職さんに墓所に入れていただき、一番古い墓を探しました。随分古い時代のものでありましたが、墓石に陸軍や海軍の名前が刻まれた昭和二十年のものが多くあり、びっくりしました。その年は終戦の年、戦争が多くの人の命を奪うことを改めて考えました。（三年 平賀 純一）

《「生涯学習講演会」に

参加して》

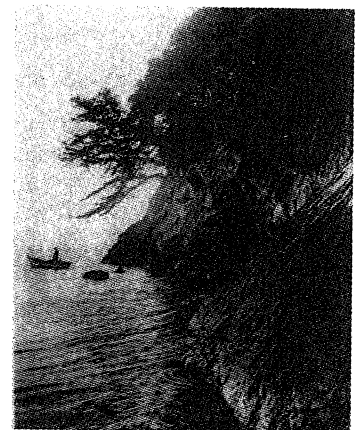
☆話を聞いていて「うん、そうだった」と心の中でうなづいたり、「へえ、そうだったのか」とか思ったりしていた。特に、土肥が鳥の「とび」からきているとは思わなかった。（二年 後藤 徹也）

☆夏休みの宿題で私が調べた所と同じ所を話されたので何かうれしかった。「頼朝が船出して、三浦一族と会った。」ということが資料プリントにもあり、やっぱり私の調べた所は正解で良かった。（二年 青木 有香）

☆史実でなく伝承というものの（実際のものかどうか分からないもの）が、たくさんあるという話に驚いた。「謡坂」もその一つなんて信じられない。

（二年 鍋谷亜沙美）

☆源頼朝や真鶴の史跡のことを多少は分かっているつもりだったけれど、全然分かっていなかった。「鵜の窟」が本当は大変大きかったと聞いて驚いた。それに



昔の鵜窟

しても、戦争中に軍事目的のために削り取られてしまったなんて、

（三年 菱沼 紀子）

☆真鶴の歴史など自分とは余り関係ないと思っていたが、今日の話は聞いてこの町に住んでいる限り、誇りをもってこの町の歴史や文化を次の世代に伝えていきたい。そして、貴船祭や頼朝旗揚げフェスティバルなど歴史を持った行事を絶やさないで未来の人に残したい。（三年 青木 久直）

社会科の学習から

真鶴小学校

大道ジョイナス

三年 青木 涼子

社会科の勉強で、わたしたちは大道ジョイナスのことを調べました。くわしく調べるために、大道ジョイナスに入っている上原さんに、お話を聞きに行きました。

上原さんにいろいろしつ問して、大道

ジョイナスのことを教えてもらいました。たくさんのお客さんに来てもらうくふうや、昔の商店がいの様子などよく分かりました。

大道ジョイナスに入っているお店は、だいたい十店くらいだそうです。いろいろな人がたくさん買物に来てくれるといなと思います。

商店がいの様子を調べて

三年 中野 美樹

わたしたちは、社会科で大道ジョイナスへ見学に行きました。商店会長の上原さんがあん内してくれました。お店で働いている人たちはとてもやさしくわたしたちのしつ間に何でも答えてくれました。それに、わたしたちだけでなくお客さんにもやさしくしていました。

大道ジョイナスの人たちは、お客さんが買いやすいようにいろいろなくふうをしていました。たとえば、お店の中に入った時お客さんが見やすいようにおき方やならべ方をくふうしていました。みんなできょう力してがんばっているんだなあと思いました。

大道ジョイナスは、わたしたちにはなくてはならない商店がいだと思います。

石材業の仕事

三年 名和良志子

私たち三年生は、石屋さんのことを調べるために、石屋さんの工場に行きまし

た。そこでいろいろとしつ問しました。

油圧掘削機によって石がほり出されてその石を船につみ小田原や早川などに運ぶことも分かりました。

そのほか、石屋さんのいろいろなこと

が分かりました。その一つは石屋さんの昔の道具です。昔はノミや矢などで石をほったりけずったりしていたそうです。それに、石を切るときもノミと矢で切っていたそうです。でも今はダイヤモンドのはできれいに切っています。

石をみがくのも、昔はたわしでみがいていたそうですが今はもうきかいを使っているそうです。

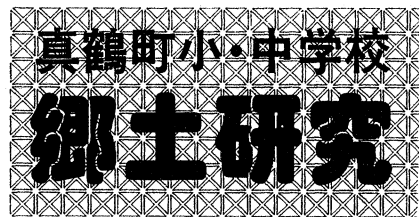
町の人たちにも石材のことをよく知ってもらいたいと思います。

石材加工の仕事調べて

三年 相磯 見幸

社会科で石材加工の仕事調べてに竹林石材店に行きました。竹林さんがいろいろとせつ明してくれました。

昔は今とちがつてきかいがなかったの、石をほったりけずったりするのがたいへんだっただろうなと思いました。それから、港まで今はトラックで運んで



いますが、昔は牛ににだいをつけて運んでいたそうです。昔の人たちは苦勞していたんだなと思いました。

加工場の中にはたくさんのきかいがありました。入口には石をけずったときに出るこなをすいこむきかいがありました。さぎょうしている人を見ると、頭にはタオルをまいてめがねをかけていて、口にはマスクをしていました。そうしないと、石のこなをすって病氣になってしまうからだと教えてもらいました。

わたしは、こんな苦勞があるとは知りませんでした。とてもよい勉強になりました。

網じめの体験学習

岩小 小学校

楽しかった親子部会

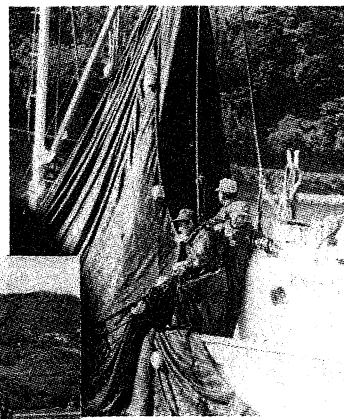
五年 諸星 尊大

十一月十九日土曜日に、岩漁港から漁船にのって、あみじめを見に行きました。

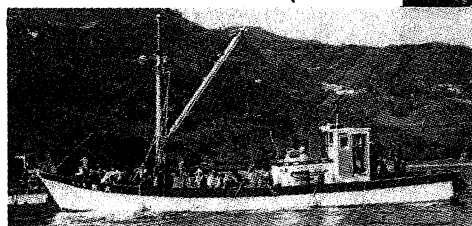
ぼくは、生まれて初めて窓のない船に乗って遠い沖の方の深い所へ行ったので何だかわくわくしてきました。岩大橋をこえてどんどん沖の方へ行ってあみのはつてある所に着きました。

あみについていた魚はそんなに大漁ではなかったけれど大きな魚もとれていました。魚がとれたのでしかけの所から港へ帰ってきました。

港へついてから、漁協のおじさんにい



漁船にのって
網じめの見学



親子部会の感想

額田 信子

十一月十九日土曜日。青い空と青い海穏やかな波の船出日和に、五年生全員とお母さん達とで「底定置網漁」の見学に出発しました。海から見える岩の港や海岸線はとても新鮮に見えました。

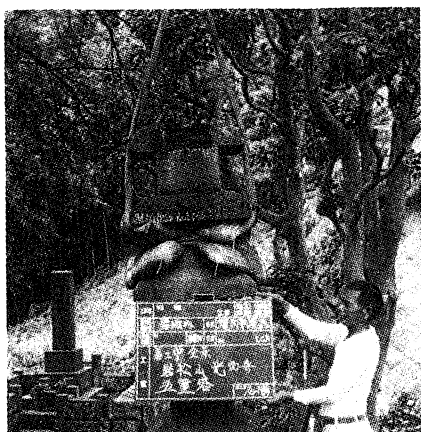
網場に着き大きな網がクレーンで巻き上げられていくと、皆、どんな魚がとれるだろうと興味津々、わくわくしながら網をのぞき込みました。残念ながら「大不漁」との事でしたが、それでも大きなイシダイや、透明で美しいイカ、キラキラ光るアジ、サバなど十数種類の魚がとれました。中には「シロウマ」という皆

が初めて見る大きな魚이었습니다。
港に帰って漁師さんのていねいな説明の後、魚をわけて頂き感謝のうちに家路に着きました。
お昼はもちろんお刺身、そのおいしかった事！
やさしくお世話して下さいました漁協の皆様、心から感謝いたします。

文化財審議委員会 だより

◎瀧門寺五層塔の修復

瀧門寺入口にある 町指定文化財、光西寺遺物「五層塔」が傾いていました。そこで、重要文化財の保護・保全の上から修復工事を行いました。
修復工事内容は、「五層塔土台石部分を鉄筋コンクリートで補強、塔の部分を根



五層塔の修復工事

元より垂直に直す、第一傘部分の破損箇所を接着修復する。」というものです。

総工事費三十万円のうち、町文化財関係予算より半額の補助を行い、平成六年八月二十五日より三十一日の工期で、町内の石勝石材店に依頼、修復をいたしました。

近くにお出かけの折にご覧下さい。

◎田廣家寄贈古文書の修復

六年度の古文書保存・修復事業として、田廣家より寄贈の古文書類の修復をいたしました。

修復の内容は、「虫穴をふさぐ、裏打ちをする」ということで、修復費はおおよそ一五八万円です。

修復依頼先は、東京目黒の春鳳堂、依頼した古文書は、

- 船網諸道具等歳数覚書 二十一帖
 - 紀州様御宿割帳 天保四年… 四帖
 - 家相口伝書 九帖
- 等、全部で十六種類、七十一帖に及んでいます。

作業は大変細かく根のいる仕事ですがこの三月には完成してくる手筈になっています。折をみて紹介したいと思います。

◎県外視察報告抄

文化財の保護・活用等についての研究のため、例年、県外の先進地の視察を行っています。今年度は去る十月十八日

より二十日までの三日間、文化財審議委員による先進地視察が行なわれました。

主な視察箇所は、姫路城・書写山円教寺・吉備津彦神社・造山古墳・備中国分寺・宝福寺・鬼ノ城・美星町中世夢が原・倉敷美観地区等の多くに及んでいます。視察地や施設の概要については割愛いたしますが、この視察により得た感想を何点か報告致します。

① 姫路・吉備の文化財に接する人々の態度やマナーを見聞するにつけ、町民の文化財に対する意識やモラルの高揚をはかる必要性を感じた。

② 「文化財を保護する」「文化財を説明する」を生きがいとしている人達と接し、文化財施設の管理、文化財の説明等の生涯学習ボランティアの発掘・育成の必要性を感じた。

③ 先進地の行政担当者・文化財管理者の市民に対するサービス精神・職務遂行心の旺盛さに接し、町民対応の重要性を感じた。

④ 各地区の保護対策を見聞し、文化財保存・保護施策の体系的立案と実践の必要性を感じた。

これらの所感、今後の活動の中で大いに生かしていきたいと思っています。

◎寄贈文化財・民俗資料

今年度寄贈を受けた物品は
① 貴船神社所蔵の幟旗

「奉納兩社御祭禮」 平井敏正氏より

② 石工先祖碑 拓本

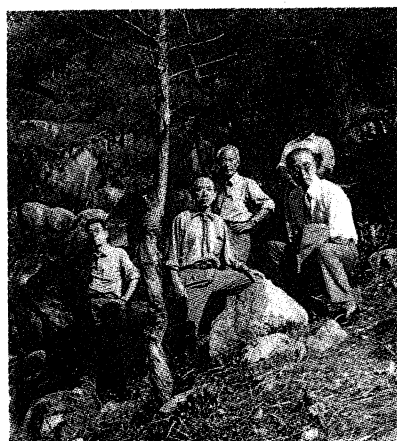
東京都千代田区教育委員会より

③ 坂本城址 石垣写真 小沢石材店より

④ 木工用諸道具他民俗資料

平井三郎氏より

大切に保管・活用したいと思っています。



史跡 鬼ノ城をたずねて

編集後記

◇ 文化財だより八号は、七号に引き続いて「真鶴の古道と文化財」を特集、真鶴地区の古道について紹介しました。

◇ 執筆には、真鶴町文化財審議委員の皆様方のご協力を得るとともに、川ノ辺昭治さん、露木良彦さん等地区の昔を知る人達からも貴重な情報、資料をお寄せ頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。

◇ 町内小・中学校からも「郷土学習」の様子を寄せて頂きました。明日の郷土を担う子ども達が郷土に関心を持ち、郷土を愛する人達に育っていく素地がはぐくまれていることに心強く感じました。